

発達段階に応じた体験活動

幼小いっしょに『のとまり会』

1 趣 旨

- ・年長児と小学生が共に生活・活動を行うことで、学び合う機会を設ける。
- ・保護者が集う場を設けることで、育児に関する知識や子育ての悩みなどを解消する。
同年代の子供を持つ、保護者同士の情報交換の場とする。

2 ねらい

- ・生活・活動場面においてメリハリをつけることで、低年齢期の子どもたちに体験活動の楽しさを感じさせる。
- ・自分の食べるものを作る、テントで寝る、布団を敷いて寝る、工作を作る、長く歩く等を活動として取り入れ、楽しみながら基礎的な生活形態を体験する。
- ・保護者同士のネットワークづくりの場を設ける。

3 日 程

(1) 期日 1回目 23年9月18日 2回目 9月24・25日 3回目 10月29・30日

(2) 参加者 1回目 子供25名 保護者12名 2回目 子供33名 保護者8名

3回目 子供33名 保護者23名

(3) 研修内容及び講師

9月18日 (日)	午前	○はじまりの会 (自己紹介 アイスブレイク) ○実習 探検能登の森 指導: 交流の家職員 ◎保護者 トークセッション「子育て支援と幼少期の心の発達」 講師 石川県こころの健康センター次長 沼田直子
	午後	○実習 おやつ作り (チョコフォンデュ) ○ふりかえり
9月24日 (土)	午後	○はじまりの会 (自己紹介 アイスブレイク) ○実習 野外炊飯 (チャーハン作り) 指導: 交流の家職員 ○実習 テント泊
9月25日 (日)	午前	○実習 海への散歩 砂像造り 指導: 交流の家職員 ◎保護者 ワークショップ「幼児期における遊びの意義や子育てのあり方について」 講師 富山国際大学 准教授 開仁志
	午後	○ふりかえり
10月29日 (土)	午後	○はじまりの会 (自己紹介 アイスブレイク) ○実習 秋を見つけよう 木工工作 指導: 鹿島自然の家職員
10月30日 (日)	午前	○実習 親子ピザ作り 指導: 鹿島自然の家職員
	午後	○実習 親子ピザパーティー ○ふりかえり

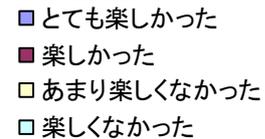
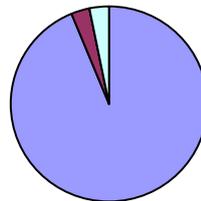
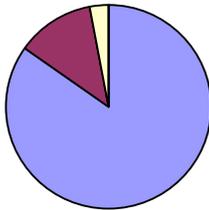
4 成果と課題

(1) 成果

<子どもプログラム>

能登の家で過ごして楽しかったですか

鹿島の家で過ごして楽しかったですか



子どものアンケート結果を見ると95%以上の参加者が「とても楽しかった・楽しかった」と答えていた。「お風呂に入ったのが楽しかった」「チャーハンを作ったことが楽しかった」「みんなで寝たことが楽しかった」「友だちがいっぱいできた」「ピザ作りが楽しかった」といった意見が多数あった。キーワードとして『みんな』や『楽しかった』といった言葉がたくさん出ており、親元を離れての初めてのお泊りに不安や心細さを感じながらも、仲間と協力して活動を楽しむことができたといえる。

<保護者プログラム>

保護者の学びの場として「子育て支援と幼少期の心の発達」「幼児期における遊びの意義や子育てのあり方について」のテーマで、講師を招いてワークショップを実施した。保護者の子育てに対する悩みを話し合い、育児に関する最新の知識を得ることで、子育てに対する自信を持たせることができた。保護者のアンケートから「子ども以上に親も大変学ぶことができ、有意義な時間を過ごすことができた」「子育てに対してゆとりと自信が持てるようになった」などの感想があり、保護者の満足度が高かったことが分かる。

<県立鹿島少年自然の家との連携>

県立鹿島少年自然の家と連携することで、スタッフ間の交流や県立の施設のプログラム体験など、各施設の長所をいかした活動を展開することができた。

(2) 課題

- ・ テント泊や海岸散歩など気候に左右される活動のため、晴天プログラムと雨天プログラムを2本立てで計画する。天候に応じて臨機応変に対応できるようにしておく。
- ・ 保護者プログラムの参加者が少なかった。子どもと保護者が一緒に学ぶという主旨が十分理解されていなかったため、保護者に周知する。
- ・ 幼児対象のため、通常の活動より多くのスタッフのサポートが必要になる。当所の登録ボランティアだけでなく、幼児教育を専攻する学生や今年たくさんスタッフとして参加した県立看護大学の学生にも広報してスタッフを確保する。



仲間と一緒にお食事



保護者プログラム



ボランティアスタッフと一緒